

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	花ことば (児発)			
○保護者評価実施期間	R6年 10月 15日		～	R6年 11月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数)	17名
○従業者評価実施期間	R6年 10月 15日		～	R6年 11月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 12月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや 意識的に行っている取組等	さらに充実を 図るための取組等
1	言語の個別療育が実施できる	個別療育に関しては来所の回数や曜日、来所時間等に合わせて実施している。大人と1対1の時間を作る事で伝える事や伝わる経験を積み重ねられるよう取り組んでいる。	個別療育の時間の確保 個別療育と小集団活動の中での児童の発信量の差などの検討
2	小集団活動と個別療育の時間を確保している	個別療育と小集団療育の時間を確保することで言葉のお勉強をする時間と活動を通して経験を積み重ねる事や楽しむ事、ルールを知るなどを検討しながら取り組んでいる。	毎日行っているため、時間の確保や時間配分が難しい状況。曜日や利用回数により活動を変動させるなど検討していく。
3	活動が固定化されずに、週ごとに内容を変化させている	週ごとに活動を変化させることで、固定化されないようにすること、2回3回と経験することで児童の自信につなげる事を目標に取り組んでいる。	児童が楽しみながら経験を積めるよう活動を検討する。また、児童がしたい遊びや経験など情報を収集していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や 工夫が必要な点等
1	活動時間が短い	個別療育、小集団療育を実施しているため、一つの活動時間が短くなってしまふ。おやつを食べる時間もあり、量の検討を行う必要がある。	時間配分の徹底や曜日をわけた活動の組み立ての実施を検討していく。 おやつを食べる量や提供するものを検討する。

2	自由活動の際に外活動を選択出来ていない	近隣に公園などがなく、駐車場で遊ぶ事ができていない。 外活動や身体を動かす活動を遊びの提示の中に出す事が出来ていない。	駐車場を活用し、外で出来る遊びを検討する。 外活動の中で何ができ、児童が何をしたいかを考え遊びの提案をしていく。
3	朝の送迎を実施していない	ご家族との話す時間の確保として送迎を依頼している。曜日を決めて対応するなどご家族と協力しながら対応していく必要がある。	曜日を決めて送迎する日とご家族の送迎の日を決めるなど対応を検討していく。

○事業所名	花ことば (放デイ)			
○保護者評価実施期間	R6年 10月 15日		～	R6年 11月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数)	17
○従業者評価実施期間	R6年 10月 15日		～	R6年 11月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 12月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語の個別療育が実施できる	個別療育は来所の回数や曜日、下校時間等に合わせて実施している。大人と1対1の時間を作る事で伝わる経験を積み重ねる、説明ができるようになる、気持ちの発信ができるようになるなど目標を立てて取り組んでいる。	個別療育の時間の確保 個別療育と小集団活動の中での児童の発信量の差などのアセスメント方法の検討、実践を取り入れていく。
2	小集団活動と個別療育の時間を確保している	個別療育と小集団療育の時間を確保することで言葉のお勉強をする時間と宿題と活動を行い、少しの時間でも毎日取り組めるように組み立てている。	毎日行っているため、時間の確保や時間配分が難しい状況。曜日や利用回数によってその日の活動を変動させていくなど検討する。
3	活動が固定化されずに、週ごとに内容を変化させている	週ごとに活動を変化させることで、固定化されないようにすること、2回3回と経験をすることで児童の自信につなげる事を目標に取り組んでいる。また2回目となると理解が出来、他のお友達に教えるなど自信がついて関わる事が出来るようにしている。	児童が楽しみながら経験を積めるよう活動を検討する。また、児童がしたい遊びや経験など情報を収集していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動時間が短い	個別療育、小集団療育を実施しているため、一つの活動時間が短くなってしまふ。 低学年と高学年での下校時間の差が大きく、合わせていると活動時間が短くなってしまふ。	時間配分の徹底や曜日をわけた活動の組み立ての実施を検討していく。曜日や児童によってスケジュールの組み立てが必要。
2	自由活動の際に外活動を選択出来ていない	近隣に公園などがなく、駐車場で遊ぶ事ができていない。 外活動や身体を動かす活動を遊びの提示の中に出す事が出来ていない。	駐車場を活用し、外で出来る遊びを検討する。 外活動の中で何ができ、児童が何をしたいかを考え遊びの提案をしていく。
3	小学校6年生までの受け入れにとどまっている	事業所の規模として現在のところ小学校6年生(12歳)までの受け入れとしている。児童発達支援と放課後等デイサービスの規模の違いもあり、受け入れる方法や枠が確保出来ていない。	地域で過ごせる児童は卒業や日数の減少などを検討する。 必要な児童は継続できるように枠の確保を検討していく。

○事業所名	花ことば (訪問)			
○保護者評価実施期間	R6年 10月 15日		～	R6年 11月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数)	17
○従業者評価実施期間	R6年 10月 15日		～	R6年 11月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○訪問先施設評価実施期間	R6年 10月 15日		～	R6年 11月 22日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	10	(回答数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等

1	花ことばへの通所ができないけど、言語面での困りがある児童に対して訪問支援を活用する事が出来ている。	ご家族の事情や事業所の事情、地域の環境により通所の選択ができない児童に対して訪問支援で介入できるように調整をしている	言語面での困りに関して介入できるよう体制を整えていく。訪問先の先生と児童の困り感の把握、情報共有を図り支援を継続する。
2	言語の個別訓練ができる	30分の個別療育を中心に訪問支援を行っている。個別療育で対応しながら、集団生活に汎化できるよう介入先の先生と情報共有を図るように気を付けている。	集団と個別での差を確認しながら、個別療育の中で練習し、次に集団生活で汎化につなげていく。
3	集団生活を送る場での児童の様子観察や情報を得ながら介入することができる	集団生活の中での児童の困り感を把握し、個別療育で練習を行っている。発信、聞く、待つなど課題を行う中で児童との関わりを中心に行うようにしている。	集団生活での状況を確認し、児童の困りや課題の共有を密に図るようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別療育がメインとなり、集団療育の中での直接支援が出来ていない	言語聴覚士のみが介入することで個別療育に偏りが出ている。	保育士の協力得て、チームで訪問支援を行うように検討していく必要がある
2	時間が固定化され、訪問先の都合に合わせて切れていない	時間が固定化される事で時間のずれや間違いは起きないように対応している	訪問先の都合を聞いて臨機応変に対応できるよう調整をするよう対応する。
3	フィードバック方法の検討が必要である	継続して訪問支援を行う事で、月1回の見学などで対応を行っている場合がある。また、変化があった際には都度報告するようにしている。	文章だけでなく、写真なども活用しながら介入時に報告できる体制を整えていく。